デジタルアーカイブ 推進コンソーシアム Newsletter

No. 17

CONTENTS

阪神・淡路大震災の映像、400年先まで伝える努力 朝日放送「激震の記録1995 取材映像アーカイブ」 木戸崇之 朝日放送テレビ 報道局

デジタルアーカイブ福井 長野 栄俊 福井県文書館(福井県立図書館兼務)

研究機関におけるデジタル・アーカイブの活用と課題

一国際共同利用共同研究拠点「立命館大学ARC-iJAC」の場合

赤間 亮 立命館大学アート・リサーチセンター 副センター長

トピックス





9.00

Q MISB

Q

阪神・淡路大震災の映像、400年先まで伝える努力

阪神淡路大震災25年

激震の記録1995

取材映像アーカイブ

朝日放送「激震の記録1995 取材映像アーカイブ」

Q動画を絞り込む

木戸 崇之 朝日放送テレビ 報道局



北上ホテル周辺の被害 た家屋前 - 男性







今年2月、希望者を募って「バーチャルガイドツアー」を試行した。 今、神戸の街に26年前の震災の爪痕を見つけるのは難しいが、 地図と連動したアーカイブなら、あたかも被災直後の街を歩くよう に災害の現実を見ることができる。インタビュー映像で被災者に 話を聞く体験もできるし、Googleストリートビューの今と見比べる ことで、復興のようすも実感できる。

イベントには400人以上の申し込みがあり、筆者のつたない ガイドではあったが、参加者からは「また企画してほしい」「次も 参加したい」と好評をいただいた。ある参加者からは「所属団体 の主催イベントとして実施したい」との要望もあった。コロナの収束 を待たずにできる、新しい防災啓発の形でもあり、アーカイブの 普及・継続のためにも、積極的に応えていきたい。

取材映像は災害の「リアリティ」を強く伝える。しかしそのリア リティゆえ、見る人がショックを受けたり、恐怖を感じる可能性も ある。トラウマを最小限にし、年齢や属性に合わせて効果的な学び を得るためにはどのような映像を選べばいいのか...そんな研究計画 を京都大学防災研究所に応募したところ、2カ年の共同研究とし て採択された。矢守克也教授(防災心理学)らの指導の下、学校で の授業や、企業・自治体などで未永く活用される「最適な災害アー カイブ」を目指し、研究を進める。

テレビ局に集積されながら様々な事情で放送しにくくなり、死蔵さ れつつあった、都市型震災の被害を捉えた貴重な映像群...朝日 放送グループホールディングスが昨年1月に公開した『激震の記録 1995 取材映像アーカイブ』は、デジタルアーカイブ学会が策定し た「肖像権ガイドライン」を素案段階から参考にするなどし、映り込 んだ多くの被災者の顔もそのまま公開した。放送業界が積極的に 災害取材映像を公開する契機となっているようで、NHKや系列局

伝承の「失敗」を繰り返さないために必要なこと

からも問い合わせをいただいた。

1995年以前、関西の人々は「関西は大きな地震が少ない」と油断 していた。しかし、その400年前の1596年に起こった慶長伏見地 震は神戸周辺にも大きな被害をもたらしていた。古文書に書かれ、 地震学者も知っていたが、一般市民にその認識はなかった。被災 の記憶を伝承し続けられなかった"失敗例"だ。

一般の私たちが古文書の記述だけで過去の災害を知るには無理 があるが、これからは違う。テレビが取材した1995年の映像を見 れば、関西に大地震が起こりうることは一目瞭然だ。ただ、デジ タルアーカイブは思っている以上に脆く、はかない。災害で物理的 に壊れるリスクは低いとは言え、予算や人材を理由に「ワンクリッ クで」終了させられてしまうことがある。東日本大震災のアーカイ ブの中には、早くも終了したものがあると聞く。そうした教訓に学び、 弊社では「どうすれば長く継続できるか」という目標に向け、公開 前後からその方法を模索している。

継続への努力① 外部機関との連携

貴重な文化財を博物館に預けるように、取材映像を図書館に「寄託」 して公開できないか...アーカイブを作る前からそんなことを考えて いた。しかし報道素材は取材時の経緯などから目的外使用が難し く、外部への持ち出しが厳しく制限されているため、ハードルは高 かった。結果、自前でアーカイブを作ることになったのだが、信頼 できる外部の組織と理念やデータが共有できていれば、万一維持 が難しくなった時にも相談しやすくなり、存立基盤を安定させられ ると考えた。

そこでまず、阪神・淡路大震災を後世に伝える災害ミュージアム、 人と防災未来センターに「後援」してもらうことにした。筆者が社 外研修でお世話になった組織でもあり、アーカイブの価値観を共 有できる最良のパートナーだ。さらにアーカイブの完成直後には、 国立国会図書館にも連携を提案した。相手が国会図書館なら 「寄託」の可能性もあると考えたが「まだそれには対応していない」 とのことなので、とりあえずは2021年度中にメタデータを共有し、 災害アーカイブ「ひなぎく」からキーワードで検索して動画にアク セスできるよう作業を進めている。

継続への努力③ アーカイブと連動した書籍の出版

昨年末に出版した『スマホで見る阪神淡路大震災』(西日本出版 社・1650円)は、スマホなどで読み取ってアーカイブ動画を視聴 できるよう、多数のQRコードを掲載した。Webと書籍一体で「アー カイブの新しい形」との評価もいただいている。

ただ「デジタルアーカイブなのに、なぜ紙の本?」「本を売るの は儲けるため?」などと質問されることもあり、困惑した。





CSR (企業の社会的責任) 活動の一環で作った震災アーカイブ は「営利」を求めていない。書籍についても、初版の著者印税を 放棄して販売価格を抑えた。リスクを負って出版してもらったので 売れないと困るが、出版の最大の目的は「アーカイブの継続」だ。 組織では、仕事が担当者に紐付くことがよくある。放送局でも、 担当者が異動して番組が変わることも少なくない。もし筆者が別 の仕事に異動しても、定年退職の日を迎えても、何千人の方が本 を買ってくださり、多くの図書館の蔵書になれば、簡単にアーカイ ブ公開をやめることはできないだろうと考えた。狙いどおり本は多 くの方に買っていただき、蔵書にしてくださる図書館も増えている。 さらに普及するようPRを重ねたい。

「営利は追わない」と見えを切ったものの、ジレンマも感じている。 "400年後"の次の阪神・淡路大震災まで、このアーカイブを、「放送

局のCSR活動」という名目だけで背負い切れる のか。背負っていけるのが一番だが、果たしてど うだろう。私たち自身でできる継続の努力をしっ かり形にしたうえで、志を同じくする多くの人々 や企業、組織にも一緒に支えてもらえるような枠 組み作りを、合わせて模索していきたい。



激震の記録1995の QRJ-F

デジタルアーカイブ福井 長野 栄俊 福井県文書館(福井県立図書館兼務)



1. はじめに

デジタルアーカイブ福井(以下「DA福井」)は、2014年3月に稼働を開始した福井県文書館と福井県立図書館(後に福井県ふるさと文学館も参加)の共同デジタルアーカイブの後継システムにあたり、2019年4月から運用を開始しています。

2021年3月末時点のメタデータ件数は約79万3千件、このうち 画像をウェブ公開しているものは約4万7千件で50万画像を数えます。3館共同運用のシステムとしてスタートしましたが、その構築と管理は大半のメタデータを管理する文書館が主に担っています。以下、DA福井の特色を紹介します。

2. 多様なデータ

特色の1つに、登録するメタデータの種類(目録種別)が多い点が挙げられます。以下に掲げる全14種のメタデータを10のグループに分けて公開しています。

グループ名	目録種別	公開件数
1) 古文書	古文書(資料群)	970件
	古文書 (資料)	193,659件
2)歷史的公文書	公文書 (簿冊)	62,122件
	公文書 (件名)	140,827件
3)新聞	新聞	41,205件
	新聞記事	241,889件
4) 県報	県報	63,384件
5)写真	写真	19,604件
6) デジタル資料	デジタル情報	1,445件
7) 古典籍	古典籍	4,271件
8) ふるさと文学館資料	文学館資料群	14件
	文学館資料	1,270件
9) 行政刊行物	行政刊行物	16,352件
10) 人物文献検索	人物文献検索	5,746件

一般にデジタルアーカイブでは、自館が所蔵する原本のメタデータや画像データを扱うことがほとんどだと思います。しかしDA福井では、原本は他機関の所蔵で、文書館は写真複製本や画像データしか所蔵していないものも含めて扱っています。

これは文書館が、1978 ~ 98年の福井県史編さん事業の成果を継承したことと無関係ではありません。他機関や個人が所蔵する古文書の複製本約2万冊を、所蔵者の承諾を得て館で公開することに重要な位置づけを持たせてきました。この方針はDA福井にも引き継がれています。

3. 県内他機関との連携

2020年4月、越前松平家・福井藩に関する3資料群、「松平文庫」

(文書館寄託)、「越国文庫」(福井市立図書館蔵)、「越葵文庫」 (福井市立郷土歴史博物館寄託)の集約公開を始めました。越葵 文庫の「家譜」278件(18,673画像)は複製本を所蔵する文書館 が管理権限を持ちますが、越国文庫はメタデータ2,367件と画像 データ38,791件を提供した福井市立図書館に管理権限があります。

また2021年4月からは、県立図書館、県立若狭図書学習センター、県立こども歴史文化館が所蔵する戦前期絵葉書、計1,046件を3館それぞれが管理権限を持ったままDA福井で画像を公開し始めました。

他機関所蔵資料をDA福井で集約公開するという方針は、2020年3月策定の「福井県教育振興基本計画(令和2~6年度)」にも明記されています。各館は独自にサーバを持つ必要はないため、画像公開へのハードルは下がります。今後参加機関が増え、県内資料のウェブ公開が一層進むことが期待されます。

4. 明治期新聞画像のウェブ公開

2020年4月から始まった、明治期地方新聞の紙面画像のウェブ公開も他機関所蔵資料公開例の1つです。地方新聞は当該地域の近代史研究等に高い有用性を持つにもかかわらず、諸外国に比べて国内では紙面をウェブ公開する例はほとんどありません。

公開対象は1882~91年 (明治15~24年) 刊行の「福井新聞(第 1次)」、「福井新報」、「福井新聞(第2次)」2,374号分(9,385画像) で、原紙は国立国会図書館に所蔵されるものです。

発刊後100年以上経過した記事の大部分は著作権保護期間が満了していると考えられましたが、署名記事のうち著作権者不明の記事を洗い出し、文化庁長官裁定制度を利用して適法にこれらを公開しました。公開開始時期がコロナ禍の外出自粛期間に合致したこともあり、国内外で好評を以て受け止められたようです。



5. オープンデータ化の進展

文書館では2017年にデジタルアーカイブ上の情報や画像に関する「学校向けアーカイブズガイド」を作成し、それをクリエイティブ・コモンズ・ライセンスの「表示ライセンス(CC BY)」で公開しました。翌年には、県広報課から移管された写真のメタデータの一部にCC BYの表示を付加し、画像データをオープンデータ化しています。

2019年に運用を開始したDA福井からは、画像表示画面に二次利用のライセンス表示を始めました。県立5館および市立1館が所蔵する資料のうち、著作権保護期間満了が確認できる約1万4千件について、画像右下に「著作権なし」を意味する「PDM(パブリックドメイン・マーク)」を表示し、メタデータの「利用上の注記(二次利用)」の項目にも同様の趣旨を文章で明示しました。

また、保護期間未了の県広報課撮影写真1万1千件については、広く二次利用をすすめるため、画像にCC BYを表示しています。このほかDA福井で公開している資料の全文翻刻テキスト・データや目録データなどのデータセットもCC BYで公開しています。このように申請なしで利用できるオープンデータを増やすことで、

二次利用の幅が大きく広がっただけでなく、利用申請にかかる事務手続きの軽減化を図ることにつながっています。

研究機関におけるデジタル・アーカイブの活用と課題

——国際共同利用共同研究拠点「立命館大学ARC-iJAC」の場合——

赤間 亮 立命館大学アート・リサーチセンター 副センター長

筆者は、大学の研究所でデジタルアーカイブ (DA) を実践してきた。1989年からDAと呼べる活動を始めているから、すでに30年を越える。現在は、立命館アート・リサーチセンター (ARC) で活動しているが、ここは早稲田大学演劇博物館での経験を投入し、1998年にDAを研究課題とする研究所としてスタートさせたものである。2002年からは、海外日本文化資源のDAを開始、英国から欧州、米国へと拡大している。例えば、演博時代から続く浮世絵DBは、現在60万件もの巨大DBに成長している。

立命館ARCは、2019年から文部科学省の国際共同利用 共同研究拠点の指定を受けた。旧帝大系の国立大学の研究 拠点6件と、公立私立大学1件のみの極めて狭き門の枠組みで あり、かつ人文社会学系からも唯一の拠点ということで責任 も重大である。

DAPCONがHP上に示す活動の概念図と対照して本拠点 (ARC-iJAC) を紹介すると、競争領域にあたる「デジタルコン テンツ・デジタル化」面では、浮世絵以外にもすでにデジタル 研究素材を大量保有しており、かつ自前のデジタル化チーム (修復部門も併せ持つ)を育成し、外部組織としてNPO法人 も持っているので、独自にデジタル化サービスを提供できる。 「編集・保存」という意味では、クラウド型オンラインデータ ベース (DB) を自前で開発・運用しており、受入れている国 内外の研究者らの重要な研究基盤として、必要に応じてバー ジョンアップや機能追加を行いながら成長させている。問題 となってくるのは「利活用」で、学術組織であるARC-iJACの 場合は、最初から"学術的"という活用目的が存在している ので、DAされDBが稼働すれば当然の如く活用される。DB が落ちようものなら、即座に連絡が入り、土日祝日関係なし に対応にあたらなければいけない。DBを持っているプロジェ クトの研究者にとっては、コロナ時代の教育対応においても 圧倒的な効果を体験できた。

次の課題は、こうしてオンライン配信されるリソースを、研究者らがデジタル・オンライン型知的生産活動の中に組み込み、"自ら"リソース間に関係性を組み込むことで、個々のリソースへの新たな意味を加えるとともに、関係性のダイアログを

構築することにある。我々は、これを実現するために、オンライン上のリサーチスペースモデルの開発を続けており、2021年度中のリリースを目指している。いわば単にデジタルコンテンツを配信するにとどまらず、第2世代の利活用モデルを手にしようとしているのである。

一方、もう一つの課題は、十分なデジタルリソースが存在しない分野の研究者の呼び込みである。最も充実している浮世絵 DBでも、一本の研究論文を仕上げるためには、この DBに掲載される資料では、必要な資料の 50%程度をカバーできているにすぎない。ましてや、これから DA を進めようとする分野の研究者にとっては、リサーチスペース型の研究スタイルは夢のまた夢である。

それを解決する方策として、オンライン上でリソース配信できるDBを気軽に"自ら"構築できるフリーなプラットフォームが生まれないものだろうか。Google Driveや Drop Boxで代表されるようなクラウド利用がアナログ型研究者にも普通のこととなっている。DAPCONがこのようなフリーのクラウド型DAプラットフォームを提供し、DAPCONも知らないうちに個人的DAが進んでいくような仕組み。そして、このようにある程度実現したDAを、いよいよ本格化させるところにビジネスの可能性を見出すような方向性。如何なものだろうか。

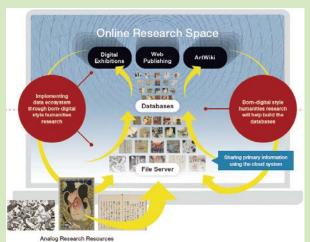


図 ARC-iJACのエコシステム型デジタルアーカイブイメージ

▶ 3/25,4/26 DAPCON: デジタルアーカイブ産業賞選考 作業部会開催

▶ 4/23,24 JSDA:第6回研究大会in仙台 (オンライン開催)

- ・基調講演「災後の時代を迎えて一東日本大震災から10年ー」 (東京大学名誉教授 御厨貴氏)
- ・対談 御厨貴氏+吉見俊哉氏(デジタルアーカイブ学会会長、 東京大学大学院情報学環教授)

DAPCON: デジタルアーカイブ推進コンソーシアム JSDA: デジタルアーカイブ学会

トピックス

▶ 4/22~29 JSDA:第6回研究大会企画セッション オンライン開催

- ・都市における文化資源のアーカイビング
- ・ビヨンドブックの可能性:書籍、電子書籍を超える
- ・ハンズオンワークショップジャパンサーチの可能性を引き出す
- ・アジア太平洋戦争関連資料の保全・継承とデジタルアーカイブ
- ・「肖像権ガイドライン」の正式公開と今後の展望

▶ 5/7 DAPCON: 第1回幹事会開催

2020年度活動総括、収支報告、2021年度活動計画(会員企業勧誘、 モデル事業開発)、予算執行計画